

NPO 法人施設マネジメント研究会

◆テーマ

- ・ 地域、学校の特性を考慮したエコ改修内容の検討・提示
- ・ 学校施設の老朽対策に併せて実施する環境対策メニューの検討・提示
- ・ 域内の学校施設に関する環境を考慮した施設整備方針策定

◆事業概要・目的

耐震安全性確保以降の新たな学校施設整備方針を策定し、藤沢市立学校施設 55 校全体の底上げを図ることを目的に、既存学校施設の実態把握及び今後の学校施設整備方針の策定を行う。

◆事業対象

エネルギー消費量等の詳細分析を進めるにあたって、55 校から対象となるモデル校を小学校 4 校、中学校 4 校の計 8 校選定。

◆検討体制：「学校施設整備方針検討実施委員会」

- | | |
|-----------------|----------------------|
| ・ 教職員 2名 (校長) | ・ 設置者 5名 (教育委員会市長部局) |
| ・ 有識者 3名 (大学教授) | ・ 事務局 2名 |

◆検討方法

① ニーズ把握

・ モデル校を対象に室内温熱環境に対する児童及び教職員のニーズ調査、設備機器の利用方法(設定温度、稼働時間など教室ごとの把握)等アンケートを行い、また本事業と並行して実施する夏期・冬期合わせた正確な室内温熱環境の測定結果をもとに、詳細な実態を把握する。

②1 次エネルギー消費量の詳細分析

1) 昨年度の実態把握データをもとに、単位床面積当たり MJ/m²(年間/月別)、児童生徒 1 人当たり MJ/人、設備方式による違い、老朽化状況による違い等の詳細な分析を実施する。

2) モデル校 8 校について、部位別仕様の整理・分析を行った。モデル校は、I 最新建替え校(教室冷房有り)、II 最新建替え校(教室冷房無し)、III 耐震補強+大規模改修、IV 老朽化校の 4 タイプを小・中学校計 8 校選定し、学校の概要(児童生徒数・学級数等)、施設・設備機器の仕様等を整理し、室内温熱環境の測定結果をもとに詳細分析を行う。(モデル校は、地形・気候的な特徴も考慮し、臨海部・内陸部から選定する。)

③環境負荷シミュレーション

・ 現状の学校施設の中で最も多い建物仕様をベースに省エネ化・低炭素化に効果があると思われる改修項目を導入することによる効果のシミュレーションを実施。

◆具体的な対応方策

●新たな学校施設整備方針

既存学校施設のエネルギー消費実態、室内環境（主に夏季）、現状における学校施設の整備レベル等を把握し、耐震安全確保以降の新たな学校施設整備方針を策定し、藤沢市立学校施設55校全体の底上げを図る。

- ① 省エネ化・低炭素化の時代に対応した学校施設への転換を図る。
- ② 教育環境・生活環境向上により、教育施設として充実を図る。
- ③ 学校施設の有効活用
 - ・ 学校を取り巻く周辺状況を定期的に把握し、地域の実情に応じて地域の中の学校として柔軟に対応する。
 - ・ 厳しい財政状況下で、学校施設を「資産」と位置付けて積極的に有効活用する。

学校施設整備方針に基づいた省エネ化・低炭素化のための改修メニューの設定

◆今後の展開

新たな基本方針に基づく予算戦略を立案し、今後策定する新総合計画につなげるとともに、個々の学校別の具体的な施設改善計画へつなげていく。

- ・ 平成22年度以降、策定した学校施設整備方針に従い、藤沢市立55校全校で実態把握を行い、建物の概要や部位別の使用・性能、スペース構成、さらに年間エネルギー消費実態を13地区ごとに整理。
- ・ 各学校の実態把握をもとに、個々の学校ごとの具体的な改善方針を検討する。今後の具体的な改善内容（改修内容や有効活用方法等）とそれに必要なコストを個々の学校・地域ニーズに合わせて検討。その後新総合計画へ反映。